

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1) お互いの存在を大切に、ルールやマナーを育む | (自分と仲間を大切にできるチカラ) |
| 2) 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実 | (社会に通じる学力と自己実現のチカラ) |
| 3) 部活動、行事で個性と能力を磨きリーダーを育てる | (自分を生かし地域に貢献するチカラ) |
| 4) 「共生推進」を通じてインクルーシブな学びの場を創る | (ともに学び、友と育つ優しいチカラ) |

2 中期的目標

1. チーム学校（チーム信太）で生徒の学びの土台を作る－生徒指導、生徒支援の徹底で「安心して学べる」学校空間を作る
 - ア 全教職員で、あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。
 - イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。
 - ※年間延べ遅刻者数を10%減とし、平成30年には3000台とする。(平成27年度4,121回、平成26年度4,442回)
 - ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実、生徒情報の共有化、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
 - ・学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の間で生徒情報の共有を早期から行う。新たに、管理職、首席、コーディネーターによる支援連絡会を週1回行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の作成と活用で生徒の継続的な支援を行う。
 - ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と地域諸機関、NPO等との連携で生徒支援のネットワークを作る。
 - エ 人権教育の充実でいじめがなく一人ひとりが大切にされる学校へ人権教育指導計画の作成。
 - ・いじめ防止パイロット校として、スクールカウンセラーを活用し、いじめの防止、早期発見およびケアの体制づくりに努める。
2. 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実
 - (1) 「学ぶ力」プロジェクトの推進

本校には、基礎学力が十分に定着できていない生徒や学習における「困り感」を持つ生徒も多い。4月1日に施行される「障害者差別解消法」では、「合理的配慮を行う義務」が謳われている。引き続き全体で「誰にでもわかりやすい授業－視覚化、構造化、生徒参加」(授業におけるユニバーサルデザイン)に向けた工夫を進める。また、学習指導要領改訂の方向は「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆるアクティブラーニング)」であり、学力をめぐる重要なテーマとなっている。教員相互の授業参観や研究授業の活発化と、生徒たちの学習意欲を促し、学力を高めるために、教員の授業力と生徒の学ぶ力の向上を目的に「学ぶ力」プロジェクトチームを作り以下のように進めていく。

 - ア 「学ぶ力」プロジェクトチーム

参加教員が教科を超えて、テーマに分かれ、授業方法や内容、評価の検討、研究授業、研修を行い校内へ還元する。具体的には、参加教員が最低1回テーマ別の研究授業を行う。11月の公開授業週間等で内外へ発信する。そのために各チームで、教案の検討や準備、見学、振り返りを行う。また、大阪府内外の先進校視察(複数名)を行う。

 - ※平成30年には教員のユニバーサルデザイン授業の意識度90%(H27・47%)、同参加型学習意識度70%(H27・30%)とする。
 - ① アクティブラーニング(参加型学習)チーム

授業における学び合い、グループ学習、参加体験型学習、プレゼンテーションなどの検討
 - ② ユニバーサルデザインチーム

授業や学習における合理的配慮のベース(学習環境、教材、声、視線など)の作成、共生推進教室の授業づくり(ソーシャルスキルトレーニング)、発達障がいや学習障がいのある生徒に有効な教材の研究
 - ③ ICT活用チーム

ICTを活用した授業の交流とスキルの伝達、機能的なICTの学習環境の検討、(タブレット型PC、電子黒板などの整備活用)、アクティブラーニング、ユニバーサルデザインとも連携してICTの活用を拡大する。
 - イ 教師力養成塾－eラーニングの導入

学習する空間づくりなどをテーマに、早稲田アカデミーが行っているインターネット環境で視聴が可能な映像に凝縮したeラーニングによる実践トレーニングを行う。実践的な授業技術を、通勤や校務の隙間時間を利用して自主的に効率よく、繰り返し学ぶ講座を導入する。
 - (2) キャリア教育の充実
 - ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。
 - イ 1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。
 - ウ 漢字検定やパソコン検定等を実施し、目標に対する達成感を体験し、さらなる上位級への挑戦を図る。
 - エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。
 - ※ 卒業時の進路決定者を平成30年度に97%にする。(平成27年度91%、26年度96%)
 - ※ 生徒・保護者の進路指導満足度を平成30年度にともに80%以上にする。(平成27年度 生徒78% 保護者75%)
 - ※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。
3. 開かれた学校づくりと部活動の充実
 - ア 運動部活動及び文化部活動の一層の充実を図るとともに、部活動加入率50%以上をめざす。
 - イ 学校説明会・体験入学などの充実を図るとともに、中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット、メールマガジン等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。
 - ウ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や中学校教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。生徒会、部活動を通して、地域の活動等に積極的に参加し、小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。
4. 共生推進教室の充実とインクルーシブな学校づくり

本年度で三学年が揃う「共生推進教室」について一層の充実を図り、インクルーシブな学校づくりを進める。

 - ア 信太高校全体の活動を通じて、障がいのあるなしにかかわらず、すべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育をすすめる。
 - イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進め、共生の生徒の自立に向けた取組みを支援する。
5. チーム学校（チーム信太）で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり

分掌や学年をこえた同僚性の確立、教職員相互の人権意識の確立、週1～2回の初任者研修、学期に2～3回のフレッシュパーソンズ研修(2～3年目の教職員対象、経験のある教職員が講師)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校への信頼】</p> <p>○「信太高校に入ってよかったと思う」生徒 64.3% (27 年: 71.5% 以下カッコ内は 27 年度) で 2 年生の満足度が低下した。保護者の「入学させてよかったと思う」は、88.3% (87.7%) で信太高校の指導を肯定的にとらえている。「学校生活は充実していると思う」生徒 74% (75.8%) は、増加しておらず引き続き授業や行事の内容の改革を打ち出す必要がある。</p> <p>○「いじめや暴力のない学校づくりに努力している」生徒 63.5% (64.3%)、保護者も 71.6% (73.7%) である。ただし教職員は 87.5% (同) がそう感じており、見えない部分の差を埋めていくきめ細かい取り組みが必要である。</p> <p>【学力保障と授業】</p> <p>○授業について、教職員「わかりやすく授業や教材の工夫ができています」95.8% (89.6%) と、「学ぶ力」PT の活動が教員の意識に反映した。それに対して、生徒「授業がわかりやすく理解できています」53.1% (59.5%) という差は開いた。チームの活動が浸透するために ICT の整備や授業の統一した UD 化の一層の推進が求められる。「テスト以外のさまざまな評価を取り入れて成績を出している」と感じている生徒 73.6% (71.5%)、保護者 77.1% (80.2%) と高く、放課後の補習など学力保障は引き続き評価されている。</p> <p>○生徒「進路実現に向けた指導が丁寧である」79.7% (78.5%)、教職員の意識も 91.7% が、進路指導が適切であると考えており、教職員の意識も高い。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○生徒指導に関して生徒 87.3%、保護者 87.6% が「生徒指導上のルールを守っている」ことを実感し、遅刻や頭髪指導が徹底されている。</p> <p>○「教育相談の充実」生徒 42.2% (46.8%)、保護者 62.8% (同) で教職員 87.5% (89.1%) で大きく変わらないが体制が安定してきた。</p> <p>○「部活動が盛んで、熱心に取り組まれている」生徒 85.2% (80.5%)、保護者 84.3% (83.1%)、部活動については約半数の生徒が熱心に取り組む高い成果をあげている。一層の加入率増加に向けた取り組みを検討したい。</p> <p>【人権教育・共に生きる教育】</p> <p>○「ともに学ぶ教育が進んでいる」生徒 52.4% (44.1%)、保護者 59.2% (58.6%)、教職員 82% (89.1%)。「共生推進教室」3 年めであり、生徒の間に理解が半数を超えている。</p> <p>○「命の大切さや人権を学ぶ機会が多い」生徒 63.3% (55.4%)、保護者 59.9% (56.6%) であり、「人権尊重とハラスメントの防止」について教職員 86.1% (80.7%) と、人権学習や「誰もが心地よい学校行事」に取り組む、人権を大切にする学校づくりが評価されてきた。</p>	<p>第 1 回 (6/11)</p> <p>○「学ぶ力」プロジェクトの推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぶ力」プロジェクトチームでのアクティブラーニング、ユニバーサルデザインを推進すべきである。グループ活動や聴覚情報が苦手な生徒もいるので生徒からのフィードバックを出せたらよい。 ・アクティブラーニングから、自分の意見を言えるきっかけになればいい。 <p>○教育支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が低い生徒もいるので大人がいるうちに自分で解決できる方法を身につけるのはとても大切なことである。自分で自分をケアすることができるように支援する。 <p>第 2 回 (11/11)</p> <p>○「学ぶ力」プロジェクトの推進について (授業見学を行って)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインチームの授業ではチョークの色使いなどが進んでいたが、もっと工夫もできるのではないかと。 ・チームで進められている授業はコミュニケーションをどう取っていくのかを考えるのにより授業である。 ・先生と生徒の距離が近く生徒たちを認める言葉が多かった。声掛けがとても大切である。 <p>第 3 回 (1/21)</p> <p>○1 年間「学ぶ力」プロジェクトの活動について (首席や教員の報告を受けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信太高校の取り組みは個々を認め、生きる力を引き出している。生徒との信頼関係があるので出来ている。信太高校は確実に変わっていくと思われる。 ・中学校での実践と同じであり、このチームの活動が全体へ広がっていくことが必要である。継続することが大事であり、中学校との連携も必要である。 ・楽しい記憶は子どもの頭にも残りやすい。いろんな答えが出て、どれが正解かと考えるときに、教師も学んでいくそれがアクティブラーニングである。 <p>○学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員「わかりやすく授業や教材の工夫ができています」95.8% に比べ、生徒の「授業がわかりやすく理解できています」53.1% と差があるが、何よりも教員の達成感というのは高く評価していい。 ・「ともに学ぶ教育が進んでいる」の数値が上がっていることを評価したい。「共生推進教室」の活動はとても重要でありがたいことである。それを含めて、かつての信太高校から印象が良くなってきたとはっきりと言える。 ・「ともに学ぶ教育が進んでいる」についてとても大切であり、「人権学習」を学校としてもっと宣伝していったらどうか。共生推進の枠や実施校の拡大を中学校からは求めたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 作る チーム 学校 (チーム 信太) で生徒 の学び の土台を	<p>ア 全教職員で基本的な生活習慣の定着に取り組む。</p> <p>イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。</p> <p>ウ 教育支援体制、生徒の相談機能の充実。</p>	<p>ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、美化活動及び授業態度等の基本的な生活習慣の改善・定着に取り組む。月 2 回の服装頭髪指導を行う。</p> <p>イ 早朝登校、保護者との話し合いなどを取り入れた遅刻指導を推進する。</p> <p>ウ 学年会議、担任会、教育支援委員会、共生推進コーディネーター、保健室等の中で生徒情報の共有を早期から行う。新たに、管理職、首席、コーディネーターによる支援連絡会を週 1 回行う。教育支援カードの活用、個別支援計画等の活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と諸機関との連携で生徒支援、いじめ防止のネットワークを作る。 	<p>ア・服装頭髪指導の継続 (月 2 回)</p> <p>イ・年間延べ遅刻者数を年間 10% の減をめざす。(H27・4, 121 回、H26・4, 442 回)</p> <p>ウ・教育支援委員会やケース会議のさらなる充実 (前年度回数増、27 年度 15 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援連絡会の開催 (週 1 回) ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用回数の拡大 	<p>ア・月 2 回の服装頭髪指導など、生徒の基本的な生活習慣の改善・定着に学校全体で取り組んだ。(○)</p> <p>イ・家庭とも連携し、継続的に遅刻指導を実施した。H28・3118 回前年度比 24% 減少 (◎)</p> <p>ウ・教育支援委員会で生徒の情報共有 (1 月段階で 10 回開催、ケース会議 20 回)。スクールカウンセラーの活用では、2 名の SC でケース会議は延べ 26 回、面談 9 回実施。スクールソーシャルワーカーの活用では、相談 19 回、ケース会議 16 回、面談や家庭訪問 7 回を数え、校内外の連携で生徒支援を推進した。(◎)</p>

府立信太高等学校

2 誰にでも分かりやすい学びとキャリア教育の充実	(1) 「学ぶ力」プロジェクト推進 ア 「学ぶ力」プロジェクトチーム イ 教師力養成塾 -e ラーニングの導入	ア 参加教員が教科を超えて、3つのテーマに分かれ、授業方法や内容、評価の検討、研究授業、研修を行い校内へ還元する。 ・参加教員が最低1回テーマ別の研究授業を行う。11月の公開授業週間等で内外へ発信する。そのために各チームで、教案の検討や準備、見学、振り返りを行う。 ・大阪府内外の先進校視察を行う。 イ ・eラーニング実践教員による報告を随時行う。	ア・自己診断の生徒の授業理解70%以上。(H27・60%、H26・61%) ・教員授業見学回数全員複数回(H27・73%) ・教員のユニバーサルデザイン授業の意識度70%(H27・47%) 同参加型学習意識度50%(H27・30%) ・プロジェクトチームそれぞれ年5回以上 ・先進校視察3校以上 イ・eラーニング実践教員を3名	ア. 生徒「授業がわかりやすく理解できている」53.1%(59.5%)と減少した(△)。 ・授業について、教職員「わかりやすく授業や教材の工夫ができています」95.8(89.6%)と、「学ぶ力」PTの活動が教員の意識に反映した(◎)。 ・教員授業見学回数複数回92%、うち5回以上が60%(◎) ・教員のユニバーサルデザイン授業の意識度;ふだんから意識57%、(試行を含むと91%)、参加型学習意識度ふだんから34%(試行を含むと89%)(△) ・プロジェクトチーム計7回うち、校内研修6回を協同学習、観点別評価、先進校報告、ジグソー法、SST、全て校外の講師を招いて実施し、校外からも多数の参加。(SST研修では校外26名)(◎) ・先進校視察4校。校外の研修にはチームから10回の参加があった(◎) イ・eラーニング実践教員7名(◎)
	(2) キャリア教育の推進	ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年の早期から大学・企業などの体験学習等を積極的に行い生徒一人ひとりの進路目標を確立する。 イ 漢字検定やパソコン検定等を実施し、目標に対する達成感を体験し、さらなる上位級への挑戦を図る。 ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。	ア・卒業時の進路決定率を28年度に97%(H27・91%、H26・96%) ・生徒・保護者の進路指導満足度を28年度にともに80%以上にする。(H27・生徒78%、保護者75%) ・就職内定率は100%の達成・継続をめざす。 イ・漢字検定合格率50%以上。(H27・58%、H26・63%) ウ・スポーツ科学専門コースの満足度85%以上	ア・卒業時進路決定率94%(2月末)(△) ・進路指導満足度生徒80%、保護者74%(△) ・就職内定率は99%(2月末)(○) イ・漢字検定合格率50%以上。(H28・59%)(○) ウ・スポーツ科学専門コースの満足度92%(3年生調査)であった。コース生徒の中で、陸上八種競技インターハイ優勝、高校歴代新記録を残した。(◎)
3 充 実 開 か れ た 学 校 づ く り と 部 活 動 の	ア 運動部及び文化部活動の一層の充実を図る イ 学校説明会・体験入学などの充実を図る。 ウ 生徒会、部活動を通して、地域の活動に参加。	ア 部活動環境のさらなる整備 イ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ、学校紹介DVD、学校案内リーフレット等の更新・活用により、積極的に情報を発信する。 ウ 地元中学生を招いた部活動交流会、中学生対象の講習会や教員対象の指導者講習会を実施する等、地域の拠点校となる。 小・中学校や福祉施設など各機関・団体との交流・連携を推進する。	ア・部活動加入率50%以上(H27・42%) イ・校内での学校説明会年8回、体験入学満足度90%(H27・95%) ・中学校訪問100校以上 ウ・地域行事参加年間5回以上(H27・8回) ・地域清掃活動年間10回以上(H27・20回) ・中学生対象部活動行事年間5回以上(H27・4回)	ア・部活動加入率42%(△) イ・校内での学校説明会年6回、体験入学満足度97%(○) ・中学校訪問のべ122校(同一校複数回含む)(○) ウ・地域行事参加年間8回 ・地域清掃活動年間28回 ・中学生対象部活動行事年間6回(○)
4 共 生 推 進 教 室 の 充 実	ア すべての生徒が「ともに学びともに育つ」教育を進める。 イ 共生の生徒の自立、社会参加に向けた取組みを支援する。	ア ホームルームや行事を通じた障がい理解を進める イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年、が連携し、関係機関との連携で就労を進める ウ 中学校、地域へ共生推進教室への理解を広げる。	ア 障がい理解のホームルームの実施 イ 共生推進委員会、共生推進のケース会議の開催増 ・自己診断「ともに学ぶ教育が進んでいる」値を生徒、保護者60%以上(H27生徒44.1%、保護者58.6%、教職員89.1%) ウ・平成29年度選抜共生推進教室志願者3名以上	ア 障がい理解のホームルーム1年生で全クラス実施(○) イ・共生推進委員会、共生推進の生徒のケース会議の開催(6回)、毎週1回共生コーディネーターとすながわ高等支援付添い者会議開催。共生3年生全員が就労内定。(◎) ・「ともに学ぶ教育が進んでいる」生徒52.4%、保護者59.2%、(△) ウ・平成29年度選抜共生推進教室志願予定8名、説明会にのべ50名が参加(○)
5 チ ー ム 学 校 の 職 場 づ く り	ア チーム学校(チーム信太)で学び合い、力を合わせて生徒を育てる体制づくり	ア 教職員相互の人権意識の確立。 イ 初任者、経験年数の短い教職員への研修の定期化、研修を通じたメンター的役割。	ア 教職員人権研修の充実 イ・週1～2回の初任者研修の充実 ・学期に2～3回のフレッシュパーソンズ研修	ア 教職員人権研修をスクールソーシャルワークで実施。自己診断で「学校は人権を大切にし、ハラスメントにも取り組む」教職員86.1%(前年80.7%)(○) イ・毎週1回の初任者研修を管理職、首席で実施。(◎) ・フレッシュパーソンズ研修計7回実施(コーチング2回、信太高校の歴史、思春期のアタッチメント、eラーニング、ジグソー法、SST)(◎)